令和２年度 メディア芸術連携基盤等整備推進事業
連携基盤整備推進事業 連携基盤強化事業

マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究 実施報告書

国立大学法人 熊本大学

令和３年２月

目次

第 1 章　事業概要 3
1.1　事業の目的（全体） 3
1.2　今年度事業の目的 3
1.3　実施体制 3
1.4　実施内容　各部会の概要 4
1.5　実施スケジュール 4
1.6　会議スケジュール 5
第 2 章　成果・課題・評価 6
2.1　各部会の成果 6
2.1.1　マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究 6
2.1.2　所蔵館ネットワークの構築 6
2.1.3　専門人材の育成 6
2.1.4　デジタルアーカイブ化の準備 6
2.1.5　マンガアーカイブ協議会の発足と開催 7
2.2　各部会の課題 7
2.3　評価 8
第 3 章　実施内容 10
3.1　マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究 10
3.2　所蔵館ネットワークの構築 11
3.3　専門人材の育成 16
3.4　デジタルアーカイブ化の準備 19
3.5　「マンガアーカイブ協議会」の発足と開催 20
3.6　実施会議内容 20
3.6.1 会議の詳細 20

目次

3.6.2　各施設における収書の範囲と方針 24
付録 27
1　刊本パッケージ作成マニュアル・改訂版 27
1.1　用語の定義 27
1.2　単行本のパッケージ化 27
1.3　雑誌のパッケージ化 28
2　「複本プール」検討事項 29
3　『マンガ史資料アーカイブ』に関する調査　　調査票 33

第 1 章　事業概要

1.1　事業の目的（全体）

本事業は、文化庁「令和 2 年度メディア芸術連携基盤等整備推進事業　連携基盤整備推進事業　連携基盤強化事業」の一環として実施し、マンガの「刊本」（＝単行本・雑誌）のアーカイブに関する拠点及びネットワークを構築するとともに、それぞれの活動を通じて得られた情報・知見・人材を共有・公開する機会を計画的に創出し、統合的かつ体系的な「マンガのアーカイブ」連携基盤整備の推進を目的とする。

具体的には、熊本大学を「マンガ刊本アーカイブセンター」の将来的な担い手と想定し、同様の目的を持ったマンガ〈原画〉のアーカイブに関する事業（「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」）と連携しながら、その実装に向けた調査研究、情報収集を行う。

1.2　今年度事業の目的

上記のような目的の下、5 か年計画の初年度となる令和 2 年度の目的を以下の 5 点と設定した。

1）マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究
2）所蔵館連携ネットワークの構築
3）専門人材の育成
4）デジタルアーカイブ化の準備
5）「マンガアーカイブ協議会」の発足と開催

1.3　実施体制

表 1-1　実施体制

コーディネーター	鈴木寛之	熊本大学文学部准教授
アドバイザー	吉村和真	京都精華大学副学長／マンガ学部教授
コーディネーター支援者	伊藤遊	京都精華大学マンガ学部特任准教授 国際マンガ研究センター
メンバー	橋本博	NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表／合志マンガミュージアム館長
	三崎絵美	明治大学 米沢嘉博記念図書館／現代マンガ図書館
	田中千尋	北九州市漫画ミュージアム図書担当
	渡邉朝子	京都国際マンガミュージアム学芸室
	日髙利泰	京都文教大学 非常勤講師
	池川佳宏	マンガアドバイザー

連携機関：北九州市漫画ミュージアム（以下「北九州 MM」）、京都国際マンガミュージアム（以

下「京都 MM」)、熊本大学、特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト（以下「クママン」)、明治大学 米沢嘉博記念図書館／現代マンガ図書館［50 音順］

1.4　実施内容　各部会の概要

1）マンガアーカイブ協議会

原画事業・刊本事業相互の情報共有及び意見交換を行う。

2）マンガ刊本ネットワーク会議

刊本ネットワーク施設による情報共有及び意見交換、「複本プール」の運用の仕方と今後の展望の検討、マンガ刊本アーカイブセンター設置に向けた刊本ネットワークの形成を目的として開催する。

3）マンガ刊本アーカイブセンター設置準備委員会

将来設置が必要と考えられるマンガ刊本アーカイブセンターが行うべき事業内容の検討（刊本の収書方針と範囲の検討、機関連携による刊本保存・活用計画の立案)、複本利活用事業の在り方の検討などを行う。

4）マンガ刊本アーカイブマニュアル会議

刊本アーカイブ事業に益する実務的な作業マニュアルを作成するために必要な事項の検討を行う。

1.5　実施スケジュール

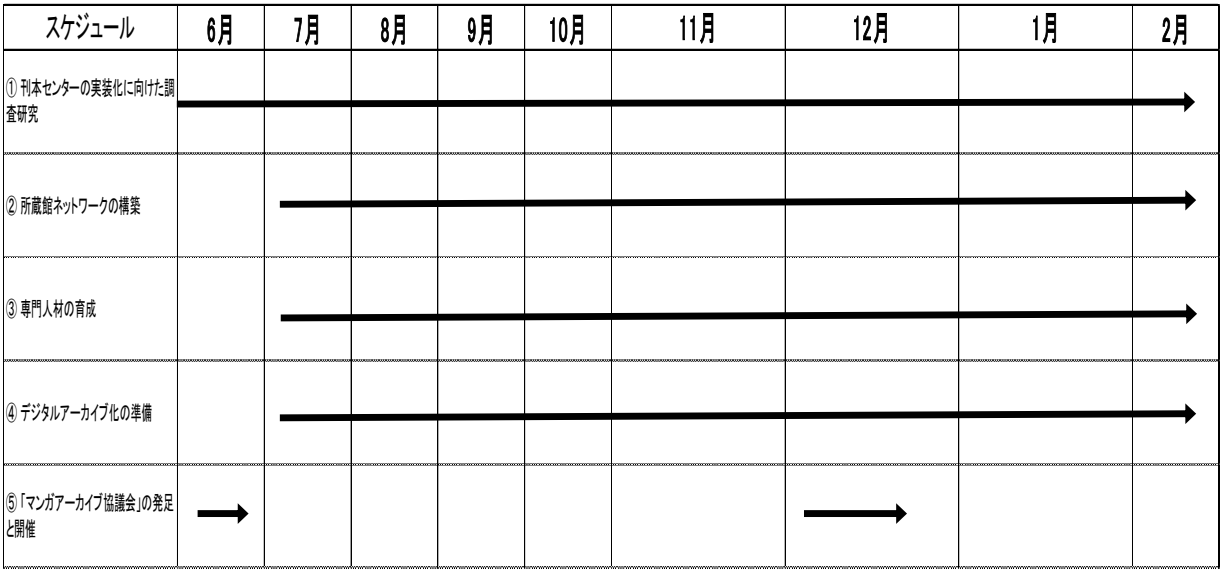

図 1-1　実施スケジュール

1.6　会議スケジュール

①第 1 回マンガアーカイブ協議会
日時：令和 2 年 6 月 23 日（火）　15 時 00 分～17 時 00 分
開催：WEB 会議（Zoom にて開催）

②第 1 回マンガ刊本ネットワーク会議
日時：令和 2 年 7 月 21 日（火）　15 時 00 分～16 時 00 分
開催：WEB 会議（Zoom にて開催）

③第 1 回マンガ刊本アーカイブセンター設置準備委員会
日時：令和 2 年 8 月 26 日（水）　10 時 00 分～12 時 00 分
開催：WEB 会議（Zoom にて開催）

④マンガ刊本アーカイブマニュアル会議
日時：令和 2 年 9 月 28 日（月）　13 時 00 分～14 時 30 分
開催：WEB 会議（Zoom にて開催）

⑤第 2 回マンガ刊本ネットワーク会議
日程：令和 2 年 10 月 10 日（土）～11 日（日）
日時・場所：　10 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分　熊本大学文・法学部棟 A2 教室
　　10 日（土）14 時 40 分～16 時 40 分　くまもと松尾西小マンガ館
　　11 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分　合志マンガミュージアム

⑥第 2 回マンガ刊本アーカイブセンター設置準備委員会
日時：令和 2 年 12 月 8 日（火）　12 時 30 分～14 時 30 分
開催：WEB 会議（Zoom にて開催）

⑦第 2 回マンガアーカイブ協議会
日時：令和 2 年 12 月 15 日（火）　10 時 00 分～12 時 00 分
開催：WEB 会議（Zoom にて開催）

第 2 章　成果・課題・評価

2.1　各部会の成果

2.1.1　マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究

将来設置が必要と考えられるマンガ刊本アーカイブセンターが行うべき事業内容の検討（刊本の収書方針と範囲の検討、機関連携による刊本保存・活用計画の立案）、複本利活用事業の在り方の検討などを行った。

2.1.2　所蔵館ネットワークの構築

前年度に引き続き、熊本の「複本プール」から、連携施設である「高知まんが BASE」に雑誌資料を移送した（第 1 回＝9 月（2,500 冊）、第 2 回＝2 月（1,800 冊））。高知まんが BASE はマンガ雑誌を軸とした閲覧コーナーを設置しており、今後も連携を強化していく計画である。熊本県内では、森野倉庫の刊本資料をパッケージ化し、合志マンガミュージアム（合志市）、くまもと文学・歴史館（熊本市中央区）、健軍まんが図書室（熊本市東区）、くまもと松尾西小マンガ館（熊本市西区）、セキアヒルズ「ホテルセキア」ロビー図書コーナー（玉名郡南関町）、「地獄温泉　青風荘.」曲水舎 2 階書籍棚（阿蘇郡南阿蘇村）などの施設に移送し活用した。刊本資料をアーカイブする意義については、県内を中心に自治体・公共図書館などで理解が深まりつつある。

今後こうした動きをさらに広げていくため、全国のマンガ関連施設・大学図書館等に「「マンガ史資料アーカイブ」に関する調査　調査票」を送付し、マンガ資料の収蔵状況に関するアンケート調査を実施した。

2.1.3　専門人材の育成

今年度は昨年に引き続き雑誌を中心に事業を行った結果、雑誌の分類、整理、データ化について必要な知見を蓄積し、作業に反映することができた。特に主要雑誌の派生誌（例えばコミックモーニングの派生誌である増刊、別冊、モーニング two など）が出てきた場合、初年度は混乱したが、今年度はスムーズに分類できた。

単行本についても同様である。例えばセット組みの際に欠本があった場合、以前はセットとしないものが多かったが、今年度はセット昇格基準を定めた結果、スムーズに作業が進んだ。

2.1.4　デジタルアーカイブ化の準備

クママン（NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト）がこれまで行ってきたアーカイブ事業について、DMA からヒアリングを受けたことで、情報の整理統合を図る機会が創出できた。また、今後の複本プールの蔵書リスト作成に当たって、メディア芸術データベースとの連携の道筋ができたことは、大きな成果となった。

2.1.5　マンガアーカイブ協議会の発足と開催

原画、刊本両事業の合同会議として「マンガアーカイブ協議会」を立ち上げ、2 回（6 月と 12 月）の会議のうち第 1 回会議（6 月 23 日）を主催した。それぞれの所蔵館が抱える喫緊の課題について意見交換がなされたほか、効率的な情報共有の仕組み作りや原画・刊本両センターの窓口機能を接続する総合窓口を設ける必要性など次年度以降の検討課題についても幾つか具体的に提起された。

2.2　各部会の課題

1）マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究

今年度は、「マンガ刊本アーカイブセンター」の目的について議論した。原則的には、アーカイブに関する「相談窓口」に徹し、実際のモノが（一時的に）収集されるスペース（「複本プール」）の運営には直接関与しない形を目指すことが確認されたが、それに代わるスペースの確保に関しては、具体的な解決策を見出すには至らなかった。

また、センターの運営体制及びコスト・収入等に関する具体的なシミュレーションも今後の課題である。

2）所蔵館ネットワークの構築

上記のような実際のモノの収集スペースの確保のためにも、既にマンガを所蔵、あるいは今後所蔵したいと考えている施設や機関とのネットワーク構築が急務であると確認された。前年度に実施した公共図書館へのマンガアーカイブに関するアンケート結果を手掛かりに、そうした施設の開拓を進めるのが今後の課題である。

当初は、そうした施設に、マンガ刊本アーカイブセンターで（「複本プール」で）準備したモノを用意するということも想定していたが、今後は例えば、「公共図書館が所蔵すべきマンガ本リスト」や「その地域出身の作家リスト」「その地域が登場するマンガ作品リスト」といった情報のみの提供も視野に入れることが確認された。そのための研究や、情報収集の仕組み作りが今後の課題である。

3）専門人材の育成

刊本資料のアーカイブに関する人材は養成されつつあるが、そうして育成された人材が収まるべきポストが確保されていないのが現状であり、そうしたポストの意義の言語化及びポストの創出が大きな課題である。

4）デジタルアーカイブ化の準備

「メディア芸術データベース」との連携を進めつつも、所蔵館ネットワークの構築のための一つの肝となるはずの、それぞれのマンガ資料をどこが所蔵しているかが分かる効率的な蔵書データの整備・共有のためのツールやデータベースが別途必要ではないか、という議論になっ

た。これを、事業内で具体的にどのように確保していくかは今後引き続き検討していくべき課題である。

5)「マンガアーカイブ協議会」の発足と開催

マンガ刊本及び原画のアーカイブ関連施設や、これら施設を活用したいと考える自治体との人的ネットワークは構築されつつあるが、これはいわばマンガの「(狭義の) ユーザー」のネットワークである。今後は、マンガ刊本や原画を実際に作り出している出版社やマンガ家とも議論を行い、マンガ作品の「供給者」にとっても意義のある（広義の）アーカイブを目指す必要がある。

2.3　評価

本事業は、マンガ刊本のアーカイブに関する拠点及びネットワーク形成のための 5 か年計画の初年度に当たる。5 か年度計画における最終目標は、熊本大学を担い手とする「マンガ刊本アーカイブセンター」の実装化と運用開始であるが、本年度は、この最終目標に向けての体制を整備しつつ、そのメンバーで、事業を俯瞰［ふかん］的に理解するための見取図とロードマップを作成し、共有することが目的であった。

体制作りにおいては、これまでの事業でも協力関係にあった施設・機関から、より「現場」に近いスタッフを事業メンバーに迎えたことで、より現実的で実践的な議論を進めることができた。

こうした事業の進め方自体、令和 2 年度に先行して実装化された「マンガ原画アーカイブセンター」と、同センターを中心とするネットワークが構築されるまでのプロセスを参考にしている。本年度最大の成果は、「マンガアーカイブ協議会」というテーブルを設定した結果、これまで理念として掲げていた、マンガ刊本アーカイブとマンガ原画アーカイブの両事業を“両輪”とするアーカイブ体制を実現させたことだろう。

一方、中間報告会で企画委員から指摘された以下の課題については、本年度中に解決されておらず、来年度以降に先送りされた。

A)「複本プール」の位置づけの再考

これまでの事業でも実験的に運用してきた「複本プール」に関しては、メンバー間においてもイメージに落差があり、また期待されている像にもばらつきのあることが判明した。今後は、「複本プール」構想の見直しも含め、再考が必要だろう。

B）ネットワーク間データベース／所蔵館リストの構築について

ネットワークに参加する施設が、それぞれどのような資料を所蔵しているか知ることができるデータベース／所蔵館リストの必要が議論された。

C）アーカイブ資料の損壊について

全国の連携館のネットワークの中で刊本をアーカイブできたとしても、施設によっては、その資料を消耗品として扱うところが出てくるだろう。「資料のアーカイブ」の実際に関する、施設間における

差異については、今後より細かい調査が必要だろう。

D)（マンガ刊本アーカイブセンターを維持していくための）収益の問題

　将来的な問題ではあるが、いずれ現実的かつ具体的な解決方法を見出す必要がある。

　本年度は、コロナ禍のため、対面によるネットワーク作りは困難だったが、テレビ会議を軸にメンバー間で定期的にミーティングを実施することができ、結果的に理解が深まった論点も少なくなかった。全体として、5 か年計画の初年度としては順調な滑り出しだったと評価できる。

第 3 章　実施内容

3.1　マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究

今年度は、先行する「マンガ原画アーカイブセンター」（横手市増田まんが美術館）をモデルにしながら、近い将来設置が望まれる「マンガ刊本アーカイブセンター」の姿と果たすべき役割についての検討を重ねた。その結果、「マンガ刊本アーカイブセンター」を中心とする「複本プール」「マンガ刊本アーカイブネットワーク」構想を、以下の図のようにまとめた。

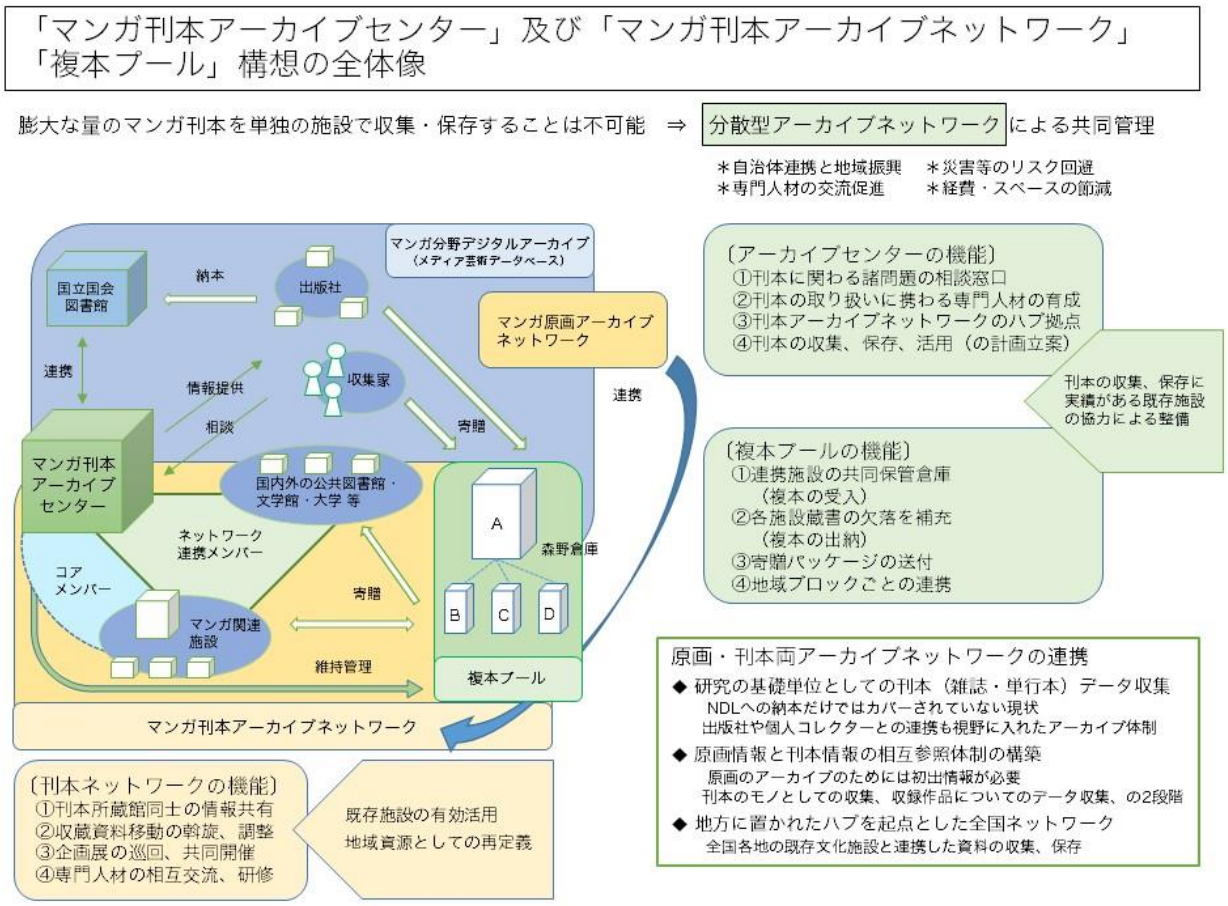

図 3-1　「マンガ刊本アーカイブセンター」の役割

マンガ刊本アーカイブネットワークについて、現段階ではこのような構想に至っているが、複本プールの在り方や連携機関の役割分担等については検討会議でも様々な意見が出され、詳細については今後も議論を継続し、この図の内容を更新していく必要があると考えている。

3.2　所蔵館ネットワークの構築

【刊本資料の移送と活用】

今年度は、コロナ禍の状況もあり、県外の連携機関への資料移送は限定的な内容に留めざるを得なかった。高知県へのマンガ資料移送は前年度（約 2,000 冊を寄贈）から継続し、今年度は 9 月に 2,500 冊、2 月に 1,800 冊を移送し、資料の一部は令和 2 年 4 月開館の「高知まんが BASE」で活用された。高知まんが BASE では、単行本に比べて造本が脆弱［ぜいじゃく］な雑誌の保存・閲覧に関して様々な取り組みを続けており、今後の刊本資料の活用の在り方を考える上で示唆に富むものである。また、マンガ関連施設のネットワークを強化するためにも、既存のデータベースも利用しながら、施設間での効率的な蔵書データの整備・共有の在り方を探っていく必要がある。

熊本県内では森野倉庫の資料を活用したマンガ関連施設は順調に増加しており、今後は連携したイベントの実施なども構想中である。今年度は、合志マンガミュージアム（合志市）、くまもと文学・歴史館（熊本市中央区）、健軍まんが図書室（熊本市東区）、くまもと松尾西小マンガ館（熊本市西区）、セキアヒルズ「ホテルセキア」ロビー図書コーナー（玉名郡南関町）、「地獄温泉　青風荘.」曲水舎 2 階書籍棚（阿蘇郡南阿蘇村）などの施設に移送し活用した。くまもと松尾西小マンガ館は市内の廃校を利活用した施設で、令和 2 年 5 月に開館した（当初 4 月開館予定がコロナ禍のため延期）。開館後も地域の方々の協力を得ながら資料移送を継続している。

図 3-2　森野倉庫 1

図 3-3　森野倉庫 2

図 3-4　高知まんが BASE 1

図 3-5　高知まんが BASE 2

図 3-6　高知まんが BASE 3

図 3-7　高知まんが BASE 4

図 3-8　高知まんが BASE 5

図 3-9　くまもと松尾西小マンガ館 1

図 3-10　くまもと松尾西小マンガ館 2

第 3 章　実施内容

【昨年度アンケートのさらなる分析について】

昨年度の刊本事業において行われたアンケート調査の概要は以下のとおりである。日本図書館協会加盟の公共図書館から抽出した 1,474 件へ調査票送付。このうち 696 件（回収率 47%）から回答があり、そのうちの 79%（548 件）でマンガ史資料の収蔵が既に行われており、収蔵数が 1,000 冊を越える施設がその約半数（267 件）、1 万冊を超える施設が 29 件。「共同保管倉庫（複本プール）」からの本の受け入れについても 165 件（24%）が受け入れ希望と回答している。

上記回答内容からそれなりに関心が高いことは分かった一方、課題も多く、(1) スペース不足、(2) 予算不足、(3) 人員不足、(4) 資料収集方針との不整合などが主要な問題として挙げられている。総合すると、マンガ刊本アーカイブセンターないし刊本アーカイブネットワークに対しては「権威ある専門的知見に基づいて、公立図書館向けに適切に選書された資料群を、恒久的な収蔵ではなく一時利用の形態で、輸送費の負担なく提供すること」が求められていると結論付けられた。

全体の傾向としてはこうした理解で間違ってはいないのだが、一口に公共図書館といっても設置主体や館種、規模の違いによって期待される役割が異なっている点にも注意が必要である。例えばマンガの収蔵に関心があると答えた施設の数を地方ごとにまとめると以下のようになる。

表 3-1　地域別アンケート回答件数

地方	合計	都道府県立	市町村立
北海道	90	1	89
東北	55	3（青森、宮城、福島）	52
関東	107	3（茨城、栃木、東京）	104
中部	87	4（新潟、富山、山梨、静岡）	83
近畿	62	1（大阪）	61
中国四国	58	6（鳥取、広島、山口、徳島、愛媛、高知）	52
九州沖縄	78	3（宮崎、鹿児島、沖縄）	75

関心の持たれ方にはかなりばらつきがあることが分かる（相対的に近畿では関心が低く、中国四国では関心が高い）が、別項目の回答をよく読むと「関心なし」と答えた中でも「郷土作家であれば収

蔵する」といった記述が複数存在するため、関心そのものはもう少し大きく見積もってもよいだろう。ただし、「郷土作家であれば収蔵する」といった場合にも都道府県立が長期的な保存を前提としているのに対して、市区町村立は必ずしもそうではなく、短期的な消耗品としての配架を前提としているという基本姿勢の違いを認識しなければならない。

以上を踏まえると、（刊本事業における当面の課題としての）既にある複本の受入先としての連携館と目指すべき刊本アーカイブネットワークの連携館をいったん切り分けて考えるべきである。ここで改めて、目指すべき刊本アーカイブネットワークとは一体どんなものなのかというビジョンが問われることになる。何を、どの範囲で、どうやって収集・保存するのかという根本的な問題であり、今後 4 か年の事業の中で原画・刊本の両方にまたがる大きなビジョンを明確化する議論も積み重ねる必要がある。

また、具体的な記述の分析から分かることとしては以下の 3 点が指摘できる。(1) 単行本については受入れ可能性がある一方、雑誌には全くニーズがない（2）受け入れ可能性があるのは、郷土、名作、学習のカテゴリがほとんど（3）複本の受入れが可能な場合も数十冊程度の規模がほとんど（500 冊以上受入れ可能：5 施設、100 冊以上受入れ可能：30 施設）。

今後、マンガ刊本アーカイブセンターないし刊本アーカイブネットワークで（公共図書館との連携に関して）行うべき作業としては、差し当たり以下の 4 点にまとめることができるだろう。(1) 公共図書館向けのマンガ選書基準の策定（2）郷土、名作、学習といったカテゴリのパッケージ化（3）相互貸借や汚損資料補充などのニーズへの対応（4）長期的な保存と複本を回転させる仕組みの役割分担を明確化。また、次年度の取り組みとして受け入れ可能冊数の多い 5 施設と相談の上、資料の移送を実施することも検討したい。

3.3　専門人材の育成

1）今年度事業における育成対象

熊本大学所属の大学院生（2 年目）

合志マンガミュージアムのスタッフ（3 年目）

複本プール専属スタッフ（3 年目）

2）人材育成のための目標

森野倉庫内の複本プールに全国から集められた資料を分類、整理、保存、活用するスキルを高める。その過程を通してマニュアルを作成するスキルを高める。移送先のニーズを把握するべくヒアリングを通してコミュニケーションスキルを高める。

■単行本

分類…男女、年齢、出版社、レーベル、作家名別に仕分けられるスキル

セット組み…同一タイトルの本を巻数順に並べ、欠本を確認補充し、完結か未完かをチェックできるスキル

データ取り…メディア芸術データベース（ISBN 利用）と照らし合わせながらリスト作成できるスキル
パッケージ作成…移送先のニーズに合わせたラインナップを揃［そろ］えるスキル
収蔵…動線の確保、積み上げ方の工夫、移送しやすいスペースを確保できるスキル
■雑誌
分類…幼年、少女、青年、女性、アダルト、ホラー、マニア、アニメ誌を仕分けられるスキル
セット組み…同一タイトルの雑誌を年代順、号数順に並べるスキル
データ…発行年月日を基に作成したデータベースとの照らし合わせながらリスト作成できるスキル
パッケージ作成…移送先のニーズに合わせたラインナップを揃えるスキル
収蔵…動線の確保、積み上げ方の工夫、移送しやすいスペースを確保できるスキル

3）パッケージ作成

上記の目標を達成するための活動複本プールにある本を恒常的にセット組みを行いつつ、オファーがあればヒアリングを数回行ってパッケージを作成した。移送先のニーズに合わせて、書誌データの 10 以上の項目から必要なものを抜き出して提供した。

■単行本
貸出し…くまもと文学・歴史館マンガ関連イベントでの閲覧用　1,000 冊
　　森都心プラザ図書館関連イベントでの閲覧用　1,000 冊
寄贈…「地獄温泉 青風荘.」（熊本県阿蘇郡南阿蘇村）図書室　1,000 冊
　　セキアヒルズホテル「ホテルセキア」（熊本県玉名郡南関町）ロビー図書室　2,000 冊
■雑誌寄贈…高知まんが BASE　4,300 冊

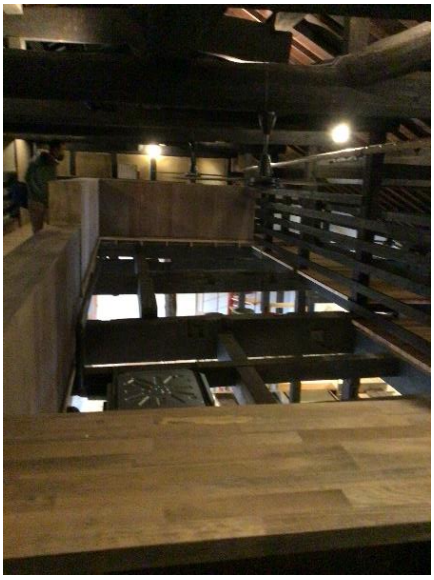

図 3-11　地獄温泉青風荘.
曲水舎 2 階　図書棚 1

図 3-12　地獄温泉青風荘.
曲水舎 2 階　図書棚 2

図 3-13　くまもと文学・歴史館

4）今年度の総括と課題

今年度は昨年度に引き続き雑誌を中心に事業を行った結果、雑誌の分類、整理、データ化についての必要な知見を蓄積し、作業に反映することができた。特に主要雑誌の派生誌（例えばコミックモーニングの派生誌である増刊、別冊、モーニング two など）が出てきた場合、初年度は混乱したが今年度はスムーズに分類ができた。単行本についても同様である。例えばセット組みの際に欠本があった場合、以前はセットとしないものが多かったが、今年度はセット昇格基準を定めた結果、スムーズに作業が進んだ。課題は毎年指摘していることではあるが、スタッフの雇用が単年度でしかも期間限定なので、せっかく人材育成をしても定着しないケースが見受けられることである。通年での雇用確保

が求められる。また複本プールにおける人材育成の成果は確かに上がりつつあるが、本格的なアーキビストの育成までには至っていない。特別のカリキュラムを組んでマンガに特化した専門家を育成していくことが求められる。

3.4　デジタルアーカイブ化の準備

今年度はデジタルアーカイブ化の事業の一環として、「メディア芸術データベース」にメタデータを登録するための調査事業を実施している DMA（株式会社 DNP メディア・アート）とクママン及び合志マンガミュージアムとの連携を図るために熊本でヒアリング、現地調査が実施された。

ヒアリング調査は 10 月 5 日、オンラインにて行われた。ここでは「メディア芸術データベース」の中にメタデータとして含まれているクママン関連の資料や情報がどのような方針で記録されたかの確認や、クママンが今後データをどのように利用したいかについての聞き取りが中心であった。現地調査は 11 月 25 日～26 日、クママンの資料の保管場所である森野倉庫と合志マンガミュージアムにて行われた。

クママン資料には、クママンの橋本博代表が長年収集してきた「橋本コレクション」がある。これは「ビンテージ資料」と位置づけられる、1980 年代以前のマンガとその関連資料であり、その種類は、刊本として、赤本漫画、紙芝居、貸本漫画、初期新書判単行本、マンガ雑誌、雑誌付録、学年誌、児童ムック本、アニメ関連資料など。その他資料として、駄菓子屋の商品（メンコなど紙類のもの）、ポスター、チラシ、ソノシート、レコード、カセットなど。また立体物として、雑誌付録、文具、キャラクターグッズ、カプセルトイなど多種多様にわたっている。

「橋本コレクション」のうち貸本漫画、雑誌付録の一部はこれまでの「メディア芸術連携促進事業連携共同事業」「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」においてメタデータの作成が進められたが、リソース（人的、費用、時間など）の問題から、データ化されたのはビンテージ資料全体の 1 割程度にすぎないのが現状である。これらは次世代に残すべき貴重な文化資源であり、今後はデジタルアーカイブ化の一層の促進が必要であるとの認識を両者間で共有した。

クママンが所蔵する雑誌について、昭和 55 年以前のビンテージ資料を除いたものについては、これまでに約 6,000 点を高知まんが BASE に移管し、データベース登録を進めることができた。

合志マンガミュージアム（以下合志 MM と略記）が収蔵する資料は単行本 50,000 点、雑誌 3,000 点である。このうち単行本についてはエクセルで作成した蔵書リストがあるが、これがメディア芸術データベースにメタデータとして活用できるかどうか、DMA のスタッフに検討してもらった。その結果、データベースに必要な項目が幾つか欠けているが、ISBN コードを利用して補充すれば対応可能ということであった。ただこれまで作成されてきた合志 MM のメタデータに不備が多く、登録項目の不足、誤入力、フォーマットの不統一が目立ち、データベース入力の際の細かなルールが浸透していないことが課題である。実験的に 1,000 点程度の補充作業を行ってみたが本格的な作業は次年度以降に行うことになった。今後、所蔵館ネットワークを展開していく上で合志 MM の事例は大いに参考になると思われる。また今年合志 MM では Google Art & Culture が進めている「デジタルミュージアムプロジェクト」に参加したが、その際に著作権の処理が課題とされた。今後デジタルアーカ

イブ化を進める際にはこの問題は避けて通れないので、次年度以降に検討会議を開く予定である。

3.5　「マンガアーカイブ協議会」の発足と開催

原画、刊本両事業の合同会議として立ち上げられた「マンガアーカイブ協議会」の第 1 回会議（6 月 23 日）を主催した。原画・刊本両事業に関わる連携機関が一堂に会する貴重な機会であり、連携機関の方に寄せられた具体的な原画の受け入れ相談についても情報が共有された。

ここで改めて議論となったのが情報共有の仕組み作りである。今年度は「マンガアーカイブ協議会」はメンバーが集まる（オンライン）会議を 2 回開催したわけだが、各連携機関に寄せられる個別の相談案件について全体で共有するのに最大半年待たなければならないというのでは、余りに時間がかかりすぎてしまう。もちろん、現在の各連携機関同士の関係性としては、即座に連絡を取り合えるので半年に一度の会議を待つまでもなく情報共有自体は可能であり、実際はそのように動いている。問題は、情報を共有するための仕組みが制度化されていないため、わざわざ個別に（個人的に）連絡しなければならないということである。今後ネットワークが拡大して構成メンバーが増えたときのことまで考えるなら、もっと気軽に（半ば自動的に）情報が共有されるシステムが整備される必要がある。原画・刊本それぞれにというよりは、全体をカバーする「マンガアーカイブ協議会」として広く情報を共有する仕組みが必要だとすると、これを取りまとめる組織が別途存在することが望ましい。仮にこうした組織が維持できるのであれば、恐らく相談する側にとっては必ずしも区別の明瞭ではない原画・刊本の別を問わないマンガ資料に関する総合的な相談窓口もこの組織が担うことになるはずである。

3.6　実施会議内容

3.6.1 会議の詳細

【マンガアーカイブ協議会】

第 1 回 令和 2 年 6 月 23 日（火）　15：00～17：00　WEB 会議（Zoom にて開催）

「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」（以下「原画事業」と略記）、「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」（以下「刊本事業」と略記）の 2 事業のメンバーが集まり、今年度の事業計画とスケジュール、役割分担を確認した。

①文化庁挨拶

②参加者の紹介

③会議主旨説明

④マンガ 2 事業による本年度事業計画報告・意見交換

・「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」

・「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

⑤総括
⑥事務連絡

参加者：吉村和真、大石卓、日髙利泰、表智之、ヤマダトモコ、日髙優子、鈴木寛之、イトウユウ、橋本博、三崎絵美、田中千尋、佐藤まゆみ、中平麻矢
オブザーバー：椎名ゆかり、中西睦美、牛嶋興平、高橋知之、池田敬二、岩川浩之、藤本真之介、横江愛希子

第 2 回　令和 2 年 12 月 15 日（火）　10：00～12：00　WEB 会議（Zoom にて開催）
関係の各施設における事業進捗状況の確認と情報共有、最終報告会及び実施報告書作成に向けての作業の確認を行った。
①参加者の紹介
②議事
●各施設事業進捗報告及び情報共有
・各施設の取り組み状況報告
・現状の課題と対応について
・増田まんが美術館、京都 MM、米図、北九州 MM、合志 MM、湯前まんが美術館、まんが BASE
●最終報告及び実施報告書作成に向けての確認
●来年度の事業計画策定に向けての確認
③事務連絡

参加者：吉村和真、大石卓、日髙利泰、表智之、ヤマダトモコ、池川佳宏、日髙優子、鈴木寛之、イトウユウ、橋本博、三崎絵美、田中千尋、佐藤まゆみ、中平麻矢、岡松泰暁、渡邉朝子
オブザーバー：椎名ゆかり、中西睦美、牛嶋興平、池田敬二、藤本真之介、横江愛希子

【マンガ刊本ネットワーク会議】
第 1 回　令和 2 年 7 月 21 日（火）　15：00～16：00　WEB 会議（Zoom にて開催）
今年度の「刊本事業」全体の役割分担について意見交換をし、分担案を定めた。
①参加者の紹介
②マンガ分野各会議体の共有
③議事
・本年度ネットワーク会議進行計画の共有

・作業分担の割り振り（複本プール運用を含む）
・資料の受渡しに係る情報共有
・第 2 回ネットワーク会議に向けての内容協議（令和 2 年 10 月 9 日、10 日、11 日予定）

④事務連絡

参加者：吉村和真、鈴木寛之、イトウユウ、橋本博、三崎絵美、田中千尋、日髙利泰、渡邉朝子
オブザーバー：堀内威志、椎名ゆかり、中西睦美、池田敬二、岩川浩之、藤本真之介、横江愛希子

第 2 回　令和 2 年 10 月 10 日（土）～11 日（日）
熊本大学・くまもと松尾西小マンガ館・合志ミュージアム

①刊本ネットワーク施設による情報共有及び意見交換会
場所：熊本大学　文・法学部棟
日時：令和 2 年 10 月 10 日（土）　9：30～11：30

●本事業全体像の確認
・各連携先からの取り組み報告
（明治大学米沢嘉博記念図書館・京都国際マンガミュージアム・高知まんが BASE・北九州市漫画ミュージアム・合志マンガミュージアム）
・各連携館による意見交換

②刊本事業における「複本プール」の役割・今後の展望
森野倉庫における刊本の収蔵状況、くまもと松尾西小マンガ館における複本活用の実例に関する現地視察の後、刊本事業における「複本プール」の役割と今後の展望について協議した。
場所：くまもと松尾西小マンガ館
日時：令和 2 年 10 月 10 日（土）　14：40～16：40
・「複本プール」の事業内での位置づけについて
・「複本プール」の実績と課題
・「複本プール」にて必要となる管理システム（DB）について

③刊本アーカイブセンター設置に向けた刊本ネットワークの形成
合志マンガアミュージアムの現地視察の後、刊本アーカイブセンター設置に向けた刊本ネットワークの拡大について協議した。
場所：合志マンガミュージアム
日時：令和 2 年 10 月 11 日（日）　10：00～12：00
・アーカイブセンターに求められる役割と機能
・アーカイブセンターにおける刊本ネットワーク形成の方向性
・今後のネットワーク構築に向けた計画、候補先の検討
・課題と展望

参加者：吉村和真、鈴木寛之、イトウユウ、池川佳宏、佐藤まゆみ、中平麻矢、岡松泰暁、田中千尋、橋本博、日髙利泰、三崎絵美、渡邉朝子
オブザーバー：椎名ゆかり、中西睦美、牛嶋興平、西田武央、高橋知之、池田敬二、森由紀、伊藤流音、白田彩乃、茂野夏実、松本剛尚、楢崎羽菜、藤本真之介

【マンガ刊本アーカイブセンター設置準備委員会】
第 1 回　令和 2 年 8 月 26 日（水）　10：00～12：00　WEB 会議（Zoom にて開催）
マンガ刊本アーカイブセンターの将来的な設立に向けた年間計画を策定し、各部会における役割分担を決め、部会ごとの目標値を設定・共有した。
①参加者の紹介
②議事
- アーカイブセンター設立に向けた年間計画の策定
- 年間計画に沿った役割分担
- 各部会の目標値設定・共有
- 第 2 回マンガ刊本アーカイブセンター設置準備委員会に向けての内容協議・日程調整

③事務連絡

参加者：吉村和真、鈴木寛之、イトウユウ、池川佳宏、田中千尋、橋本博、日髙利泰、三崎絵美、渡邉朝子
オブザーバー：椎名ゆかり、中西睦美、牛嶋興平、池田敬二、藤本真之介、横江愛希子

第 2 回　令和 2 年 12 月 8 日（火）　12：30～14：30 WEB 会議（Zoom にて開催）
マンガ刊本アーカイブセンター設置に向け、これまでの事業成果を踏まえ、今後課題となる点について協議した。
①参加者の紹介
②議事
- アーカイブセンター設立に向けた年間計画の策定
- 年間計画に沿った役割分担
- 各部会の目標値設定・共有
- その他

③事務連絡

参加者：吉村和真、鈴木寛之、イトウユウ、池川佳宏、田中千尋、橋本博、日髙利泰、三崎絵美、渡邉朝子
オブザーバー：椎名ゆかり、中西睦美、牛嶋興平、池田敬二、藤本真之介、横江愛希子

【マンガ刊本アーカイブマニュアル会議】
令和 2 年 9 月 28 日（月）　13：00～14：30　WEB 会議（Zoom にて開催）
今後の刊本事業で必要となる「複本プール」の規模・機能・役割について検討し、施設の運用マニュアルに必要となる項目案について協議した。
①参加者の紹介
②議事
- 本年度アーカイブマニュアル会議進行計画の共有
- アーカイブマニュアルの内容協議
- 作業分担の割り振り（複本プール運用を含む）
- 資料の受渡しに係る情報共有

③事務連絡

参加者：鈴木寛之、イトウユウ、三崎絵美、日髙利泰、渡邉朝子
オブザーバー：池田敬二、藤本真之介

3.6.2　各施設における収書の範囲と方針

【京都国際マンガミュージアム】
マンガとその周辺資料ということで、国内外の雑誌と単行本、研究書・参考書などを、特に時代や国・地域を限定せずに収集している（現在最古の資料は江戸時代の古典籍）。
収蔵スペースに余裕がないことは周知済みだが、寄贈の依頼は断続的に入ってくる（令和 2 年 4 月～12 月で 65 件）。その中の案件で、創刊号から約 100 冊揃っている雑誌の寄贈依頼をクママンへつなぐことができた。これは館同士による情報共有と受け入れ対応の事例として、来年度以降の活動に向けた第一歩である。

【明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館】
収集については、明治大学マンガ図書館規程として「日本のマンガ，アニメ等の資料を収集」との大枠が明示されている。米沢嘉博記念図書館は米沢氏の所有していた資料整理を中心の業務とし、現代マンガ図書館も独立運営されていた頃よりの継続した資料の購入など、両館ともに既にあるコレクションを蔵書の基としており、その方向性を受け継ぎつつ紙媒体資料の収集整理を行って

いる。しかし、マンガジャンルの多様化や、1 冊から持ち込まれる寄贈資料の検討など、資料をどのように収集、保存、公開すべきか判断を必要とする場面が多々発生し、収集方針の作成が必要な時期に来ていると感じる。

また電子化された資料の取扱いなど、日々知識と情報をアップデートして臨むべき案件もある。当館のみならず、広くマンガ資料を取り扱う施設で専門的な知見の共有や伝授・継承などの場の設定と、その蓄積を系統立てて公開するような環境の確立が、専門図書館としての独自性のある蔵書構築や、時事に添った資料の適切な収集に繋［つな］がると考える。

【北九州市漫画ミュージアム】

当館の資料収集は、利活用に重きを置いて書架運用している図書資料と、恒久保存を目的としふだんは収蔵庫で保管する学芸資料の 2 系統があり、ここでは主に図書資料について述べる。当館の定める「資料収集要綱」に基づき、公共施設としての役割、利用者各層の要求及び社会的な動向を十分配慮して、市民の文化、教養、調査、研究、趣味、娯楽等に資する資料を選定・収集。ゆかり作家の作品や歴史的名作に加えて、近年の人気作や外国漫画の邦訳、漫画やアニメ等の研究書・事典の類も収蔵することが特徴。

選書は漫画賞・ランキング・書評・アニメなど他メディアへの展開を参考に独自に判断。全年齢に推奨できる「ファミリー（F)」と、中高生～大人に推奨する「ユース＆シニア（YS)」の区分を、連載誌の性質と内容を元に判断して配架している。

形態は開架運用に適したもの（堅牢［けんろう］で再入手が困難でない）に絞り、雑誌・廉価版単行本・同人誌・パンフレット・電子書籍データなどは収集しない。出版社の自主規定による「成年コミック」や、何らかの問題で出版社が市場から回収したものも対象外。

なお学芸資料は、北九州ゆかり作家の業績を収集。単行本は版型違いや再編集版も含めて網羅的に収集するが改版・増刷は考慮していない。掲載雑誌は連載開始・終了号など資料的価値の高いものを優先。ほかに、ゆかりの作家を取り上げた漫画・アニメ情報誌や、ゆかりの作家に関するもの以外でも、当館開催の展覧会・イベントに関わるものも適宜入手し収蔵している。

図書・学芸に共通する課題としては、市の会計手続上、古書購入が困難なことが大きい。稀覯［きこう］本の類はもちろん、古い損耗資料の買い替えや、近年は新刊の刷り数が抑えられ、品切れ重版未定となるサイクルが早く、新刊の購入にすら苦慮することが多い。寄贈頼みでは賄えない部分が大きく、資料を融通し合える仕組みの実現を本事業には求める。また選書についても、専門施設同士でリストを共有し相互に参照することで、より質の高い収集を効率的に進められると考える。

【合志マンガミュージアム】

当館の蔵書は、クママンの代表理事でもある館長の個人コレクションが中心となっている。そのほか、全国のマンガ関連施設、コレクターから寄贈される資料のうちミュージアムに在庫がないものを抜き出して蔵書に加え、残りはクママン が運営する複本プールに回して国内外の施設に寄贈、貸与

を行っている。蔵書数は開架閉架合わせて 5 万冊であるが、全国からの寄贈を受けているので収蔵スペースの限界に近づきつつあるのが課題である。

当館では日本を代表するオリジナルコンテンツである妖怪、忍者、漫画を三本柱とする「YO・NIN・MAN（妖忍漫）ミュージアム」を目指しており、毎年「忍者の日」（2 月 22 日）、「妖怪の日」（8 月 8 日）、「まんがの日」（11 月 3 日）などの機会にイベントや展示を行い、関連マンガも収集している。

付録

1　刊本パッケージ作成マニュアル・改訂版

1.1　用語の定義

1）刊本…これまで刊行されたことのあるマンガ雑誌、単行本の総称。
両者は単行本コード（ISBN）か、雑誌コードのどちらがついているかで区別。
但し 1980（昭和 55）年以前には ISBN が付いていない。またいわゆるコンビニ本は単行本の形式をとっているが雑誌コードが付いている。

2）単行本
セット…単行本のうち同一作者、タイトルのもので巻数順に並べたもの。
完結しているものは（完）、未完結のものは（未完）と表示。
パッケージ…一定の目的に沿ってセットを組み合わせたもの。
その地域ゆかりの作家を集めたご当地パッケージ、スポーツ、学園、ホラー、SF などのジャンルパッケージ、作家別パッケージ、属性別パッケージ、発行年を 10 年刻みでまとめた年代パッケージなど。
属性…対象読者の性別、年齢（少年、青年、少女、女性）、サイズ（新書判、B6 判、A5 判など）、出版社、レーベル、取り扱っているジャンル、漫画家、原作者名など。
リスト…タイトル、作者名、出版社、レーベル、巻数、発行年などの書誌データを記したもの。基本的にはエクセル使用。

3）雑誌
基本データ…誌名、号数、通巻、出版社までは問題ないが、本誌、派生誌の区別は要注意。
例）本誌…週刊少年ジャンプ、派生誌…週刊少年ジャンプ増刊号、月刊少年ジャンプ、別冊少年ジャンプ
発行年月日、発売年月日は出版社によって表示が異なるので要注意。付録の扱いも知見が必要。

1.2　単行本のパッケージ化

セット本をパッケージ化する際の実際の段取りは以下のとおりである。

1）運搬・開封
倉庫に到着した資料（段ボール・コンテナ等）の運搬・開封

2）セット作成
セット＝マンガ単行本をタイトルごと・刊行形態ごとにまとめたもの
全巻揃いとは限らない
例：　「シティーハンター　1～21 巻」（ジャンプ・コミックス）

「ドカベン　1巻～17巻」（少年チャンピオンコミックス）
「ドカベン　1巻～10巻」（秋田文庫）
「瞳のラビリンス　全1巻」（講談社コミックスフレンド）など

3）（手書き）リスト作成

出来上がったセットの内容をリスト化する。（この段階でのリスト作成は手書きの方が早い。パソコン入力は後でまとめて行う方が効率的）

リストに拾いあげた項目：

収納先・コンテナ等の番号・タイトル・巻数・作家名・出版社

記載例）　ブラジル・サンパウロ大学　＃097

サバイバル　1～5　さいとう・たかを　リイド社

4）パッケージ作成

複数のセットをテーマに沿って組み合わせた「パッケージ」を作る

送付先のニーズを確認した上で作成

例）　ご当地パッケージ、ジャンル別パッケージなど

5）パッケージ内容のリスト化

パッケージ内容を Excel 等でリスト化する。

1.3　雑誌のパッケージ化

令和元年、令和2年度の雑誌発送事業

令和元年度 発送先：高知県まんが BASE
発送雑誌総数：2,000 冊
特徴：少年、少女雑誌中心

令和2年度 発送先：高知県まんが BASE 、旧高知県立大槌高校校舎
発送雑誌総数：2,000 冊
特徴：青年、女性、4 コマ雑誌中心

全体の流れ

1. 集約、開封
   雑誌が箱詰めされているコンテナ、段ボールが各所に点在しているので1箇所に集約して開封。
   送付先の収蔵キャパに合わせて送付する冊数を調整。
2. ビンテージ雑誌の抜き出し
   1980 年以前の雑誌はビンテージとして別個処理するので抜き出し。
3. 雑誌の属性に合わせて本棚に並べる
   少年、少女、青年、女性、4 コマ、ギャンブル、丸背、平背、アダルトなど。
4. タイトルを揃え、年代、号数順に並べ替え

パッケージを作る際は同一タイトルでも本誌、派生誌、別冊、増刊があるので要注意。

5. 手書きのリスト作成
箱番号、タイトル、年代、号数、冊数を記録。合併号があるので冊数と号数のズレに注意。
6. 手書きリストのデータ化
文化庁データベースと照らし合わせながら書誌データを作成。
7. 本の箱詰め、発送
リストと内容物との照合は確実に。箱のサイズを揃えておくことが肝要。

2 「複本プール」検討事項

● **各施設の設置場所と役割**

［熊本］

①マンガ刊本アーカイブセンター

1）刊本に関わる諸問題の相談窓口
2）刊本の取扱いに携わる専門人材の育成
3）刊本アーカイブネットワークのハブ拠点
4）刊本の収集、保存、活用（の計画立案）

② 複本プール…現在は森野倉庫（熊本市中央区）・松尾西小学校（熊本市西区）。将来的には西合志図書館（熊本県合志市）又は他施設へ移設の可能性も。

1）連携施設の共同保管倉庫（複本の受入れ）
2）各施設蔵書の欠落を補充（複本の出納）
3）寄贈パッケージの送付
4）地域ブロックごとの連携

③ マンガ刊本アーカイブストレージ（仮称）現在は森野倉庫、合志マンガミュージアム。将来的には他施設へ移設の可能性も。

1）次世代に残すべきマンガ資料の選定
2）アーカイブ資料の収蔵保管
3）収蔵資料を活用した展示会、イベントの開催、復刻、電子化事業

［各地］

熊本に設置されるのはハブ施設であり、全国にはそれぞれブロック（沖縄・九州・四国・中国・近畿・中部・関東・東北・北海道）ごとを基準として、マンガアーカイブ施設を設けることも想定

● **刊本ネットワークの機能**

1）刊本所蔵館同士の情報共有
2）収蔵資料移動の斡旋［あっせん］、調整
3）企画展の巡回、共同開催
4）専門人材の相互交流、研修、既存施設の有効活用

● 各地との連携

※背景

＊自治体連携と地域振興　＊災害等のリスク回避
＊専門人材の交流促進　　＊経費・スペースの節減

※連携先

マンガ原画アーカイブセンター…　横手市増田まんが美術館
マンガ関連施設…各地のマンガミュージアム、マンガ家顕彰施設

● 複本プール事業の全体の流れ

- 正複チェックをして正本はアーカイブストレージへ、複本は複本プールへ移管
- 複本プールでできたセットはアーカイブセンターを通じて国内外の施設へ配布
- 連携施設、県内外のコレクターからの資料の受け入れ（インプット）
- 複本プールでは複本を一定の基準に基づき分類整理
- 交換会、即売会を通して無償、有償で放出又は廃棄（アウトプット）
- その費用でセンターの運営費を捻出

● 複本プールでの作業の手順

1）正本と複本の分類

当該施設用に 1 点、バックアップ用に 1 点、交換用に 1 点合計 3 点を正本として取り分けてストレージに移管、それ以外を複本としてプールに投入する。

2）属性別の分類

男女、サイズ、出版社、レーベル、作家別に分類して棚に並べてデータを取っていく。

3）セット作成

他施設への配布用に下記のマニュアルに従ってセットを作っていく。完成したセットはデータ化した上で 20 を超えるセットは特注の段ボール本棚を活用してそのまま先方に送れるように準備をしておく。

- 単発もの…男女、サイズ、レーベルで大まかに分類した後、作家名の 50 音順で揃えていく。
- セットの巻数…2 巻以上のものをセット対象とする。1 巻の存在は不可欠。欠本が全体の 2 割を超えなければセットとして処理する（欠本リストを挟み込む）

・特定作家…10 タイトル以上、あるいは 100 冊以上の作品がある作家は特定作家として別個に処理する。

（例）手塚治虫、横山光輝、石森章太郎、永井豪、さいとう・たかを、藤子不二雄（A・F)、ジョージ秋山、本宮ひろ志、矢口高雄、弘兼憲史、柳沢きみお、里中満智子、萩尾望都、竹宮惠子、室山まゆみ、細川知栄子　等

4）セットのパッケージ化

・ご当地パッケージ…各都道府県別にご当地作家を調査して地方からのオファーに備える。
・ジャンル別パッケージ…スポーツ、ホラー、時代劇、SF、転生、グルメ、学園など
・年代別パッケージ…10 年刻みで年代を区切り、代表的な作品をピックアップする。
・学校、公立図書館向けパッケージ…「これも学習マンガだ」を参照してセレクトする。

5）バラ本の整理

セットにならなかったものは棚に並べておくか段ボール本棚に並べておく。複数巻あっても並べておき、順次セットを作っていく。

分類

・サイズ別（新書判、B6 判、A5 判、B6 判、文庫本）
・出版社別、レーベル別、
・作家の 50 音順

● 本事業で育成すべきスキル（人材育成）

1）マンガ刊本アーカイブセンター

各施設の蔵書数、収蔵能力、スタッフのスキル、資料へのニーズに関する情報収集能力
運送、資金調達、データ管理、施設の運営、事務能力

2）複本プール

複本の分類整理能力、本のサイズ感、年代、レーベルに関する瞬間判断能力
複本を有効利用するための発想力

3）アーカイブストレージ

ビンテージ性（レアリティ、市場的価値と資料的価値の区別)、トリアージ（優先度）の判断能力
マンガ、アニメ、ゲーム、特撮、動画分野との関連性を把握できる能力
メディア芸術データベースベータ版への順応能力、データ処理技術

● 今年度の反省点

- アーカイブ機能、複本プール機能、窓口機能の 3 つの役割が明確に区別されていなかった。
  →3 つのうち本事業で行うべき事業内容を明確化することにより、熊本をモデルケースとしていく。
- 森野倉庫に想定外の量の資料が持ち込まれたことにより現場が混乱した。
  →森野倉庫には新書判、ビンテージ資料、松尾西には B6 判、正本は合志マンガミュージアムに分割配置する。
- 本事業に関わってきたメンバーが雇用の不安定さによりここから離れてしまった。
  →雇用確保のためのシステムを作り、育成すべきスキルを明確化する。

3　『マンガ史資料アーカイブ』に関する調査　　調査票

YES／NOに○を付けて下さい。

1. マンガ単行本・雑誌の収蔵に関心がある。
   YES→質問2へ
   NO→その理由を教えてください。

【　　】

2. マンガ単行本・雑誌を既に収蔵している。
   YES→質問3・質問5・質問6・質問7・質問8へ
   NO→質問4・質問7・質問8へ

3. 3-1：収蔵しているマンガのおよその分量について教えてください。

単行本【　　】

雑　誌【　　】

（※配架雑誌も含む）

3-2：収蔵している単行本の主な作家・作品名について教えてください。

【　　】

3-3：選書の基準について教えてください。

【　　】

4. 将来的にマンガ単行本・雑誌の収蔵を行いたいと考えている。
   YES→質問5へ
   NO→その理由を教えてください。
   （回答例：収蔵に理解が得られない、量が多い、選書が困難　など）

【　　】

5. 5-1：マンガ単行本・雑誌を収蔵する理由・目的を教えてください。

【　　】

5-2：収蔵を行ううえでの課題（空間、予算、専門人材、その他）について教えてください。

【　　】

6. マンガ資料を集積した「共同保管倉庫（複本プール）」からの本の受け入れ（本代は無償で送料のみ負
担）が可能だとしたら、どのような単行本（年代・ジャンルなど）や雑誌を、どのぐらいの分量受けいれることが可能かを教えてください。

【　　】

付録

7. 収蔵しているマンガ単行本・雑誌のうち、不要になったもの「共同保管倉庫（複本プール）」にご寄贈いただけるとしたら、どのような単行本・雑誌を、どのぐらいの分量、寄贈していただけるかを教えてください。

単行本　【　　】

雑　誌　【　　】

8. こうした取り組みについてのご希望、ご質問等ございましたらご自由にお書きください。

【　　】

氏名：

所属・役職：

連絡先：

本報告書は、文化庁の委託業務として、大日本印刷株式会社が実施した令和２年度「メディア芸術連携基盤等整備推進事業 連携基盤整備推進事業 連携基盤強化事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。
転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。